



学校だより

横浜市立矢上小学校

👏手をつなぎ 笑顔いっぱい 矢上っ子👏

1月号

発行日 令和6年1月9日

次の50年に向けて さらに変化・改善を

校長 岸 俊介

1月1日の夕方、石川県を中心とする広い地域で最大震度7の大地震がありました。緊急地震速報や大津波警報に東日本大震災を知る人でなくとも緊張の時間が続きました。災害の大きさがだんだんと明らかになり、その報道に接するたび胸が痛みます。被害にあわれた方々に心からのお見舞いを申し上げます。

新年が始まる1月1日の朝日新聞朝刊に、とても興味深い記事が掲載されていました。

記事のタイトルは『(ドキュメント2024) いいですよ。ゆっくりで。「効率」の逆、もたらしたのは』です。

記事によると、静岡鉄道(以下:静鉄)は列車の駅停車時間を、2022年12月から、午前9時から午後5時の間、15秒から20秒に伸ばしたとのこと。当然、所要時間は長くなります。静鉄は「速さ」「正確さ」「安全性」「乗り心地」など、利用者のいろんなニーズをはかりにかけ停車時間延長を決定します。その理由の一つに「運転士の精神的負担の軽減」があるといえます。

鉄道は発車が遅れると、走っている間に遅れを取り戻そうとブレーキのタイミングなどを調節するそうです。運転士へのプレッシャーは大きいでしょう。しかも静鉄は駅間が短く、遅れを取り戻すことは簡単ではないとのこと。5秒伸びたことで乗客や運転士の余裕ができたからか、駅停車時間の延長導入から1年、遅れはほぼなくなったといえます。

学校は鉄道会社と業種は違いますが、様々な方々のニーズが集まる場所という意味では一緒といえます。加えて、学校は「新しい社会・未来をつくる子どもたちを守り、育てる」ことが社会から期待され、その業務の範囲は年々拡大する一方です。鉄道で例えるなら、営業路線・営業区間が時代とともに拡大しているといえるでしょうか。拡大する営業範囲を限られた人員と限られた資源で「遅れなく」「安全に」運行し続けるにはもはや限界がきつつあります。学校にも「静鉄」のような決断が必要です。

矢上小は2023年に50周年を迎え、2024年、次の50年に向けて走り始めます。中心にある理念は教育目標である「手をつなぎ 笑顔いっぱい 矢上っ子」です。この目標に近づくために、今年も変化を恐れず改善を続けていく必要があります。

前出の記事に、読者への大きな問いかけがありました。その問いかけを引用します。

戦後、異例の経済成長を遂げた日本。効率はより多くの幸せをもたらすものと信じられてきた。でもそれは、今後も最善の策なのだろうか。

この2024年、効率だけでなく「ゆっくり」が生み出すよさを取り入れるなど、今まで正解をだしていた「固定観念」にとらわれない変化・改善を行うこと=これからの「最善の策」を考え、子どもたち、保護者の皆様、まちの皆様と一緒に、次の50年につながる学校をつくっていきたいと考えています。今年もよろしくお願ひします。

👏次の50年に向けて…令和6年度、矢上小はさらに「変化・改善」していきます～その1～👏

令和6年4月から、家庭と学校の連絡システム「すぐる」が導入されます

令和6年4月横浜市全市立学校一斉導入となります。メール配信機能に加え、おたよりのデジタル配信、**欠席・遅刻連絡機能**などが実装されます。詳しくは追ってご連絡します。

令和6年4月から、留守番電話を16:45から設定します

欠席・遅刻連絡が「すぐる」で連絡できるようになることや職員の勤務時間が16:45までということに鑑みて、令和6年4月から留守番電話を16:45から翌朝7:45までに変更します。ご理解とご協力をお願いします。

【学校の様子をホームページにてお知らせしています】

各学年の活動や学校からのお知らせを掲載しています。ぜひご覧ください。

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yagami/>



↑QRコード↑